



並木中等story

令和3年10月5日号

肩書きでなく、中身の充実を

「並木中等生は一目置かれる。」と他校の生徒に聞きました。それを聞き、“並木中等の肩書きでうぬぼれないで欲しいな”と思いました。肩書きはいつかはなくなるのです。肩書きを自慢していると、それがなくなった時に悲しい思いをするのは自分自身です。中には「私はかつて〇〇だった。」と偉そうに語る人がいますが、それは過去の話で、そのような話を聞くと、過去の肩書きに頼って生きる残念な人のように思えてしまいます。私も、“かつてこうだった、〇〇ではこうだった”と偉そうに話す時があります。しかし、その話の後で、“今、自信を無くしているから、自信を取り戻そうとして、過去を自慢話をしたな”と感じ取り、自己嫌悪になることもあります。



大切なのは肩書きではなくて、“今、自分が何ができるのか、どう社会に貢献できているのか”つまり、その人の中身なのではないでしょうか。肩書きよりも、“私は今、こんなことができるよ。こんなことを探究しているよ”と中身で勝負する姿の方が素敵に感じます。皆さんも中身の充実を図ってください。

《祝！ We Support UNICEF 賞を受賞》

本校国際教育部の有志団体が文化祭（かえで祭）において、フェアトレード等の商品を販売した収益金12,220円をユニセフ協会に寄付したところ、この賞をいただきました。本校には国際貢献に意識の高い生徒が多くいます。